

# “おとなの女性が着たい SUMMER WOOL”

地球環境の変化とともに、私たち人間も変化が求められてきた今、サステナブルファッションが大きなテーマになってきた。

天然繊維には綿、麻、絹、羊毛などたくさんある中、それぞれの特性を活かした物を作りたいと思った。

また女性は年齢とともに女性ホルモンのバランスにより、室内の温度差による乾燥、冷え、発汗などに体の変化にうまく付き合えなくなってくる。

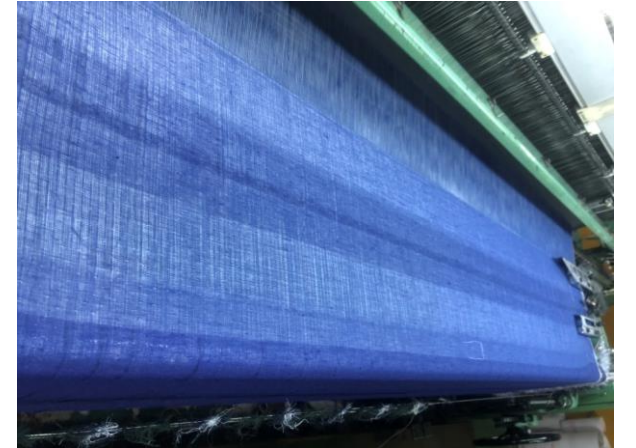
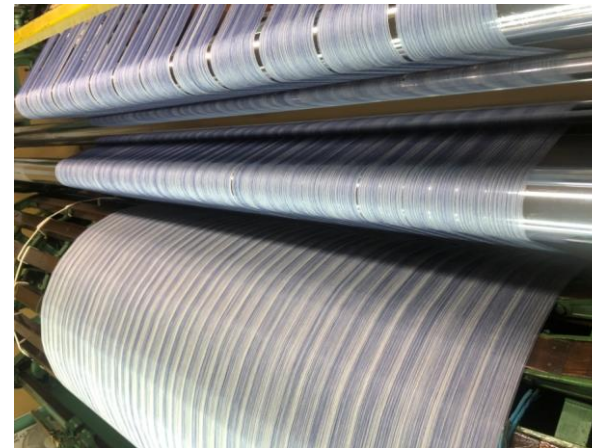
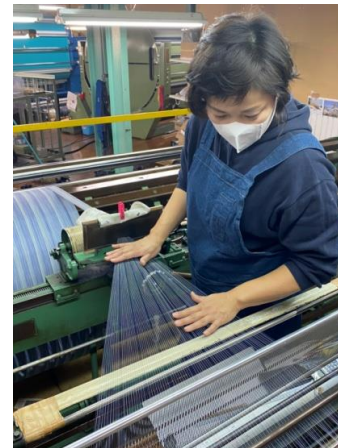
そんな中でも毎日、仕事や家事、介護などをこなしていかなければいけない。女性が笑顔でいるために、少しでも快適に暮らしていけたらと考え、

肌の触れ心地にこだわり、二重織りで表と裏で素材を変え、通気性、保温性、吸湿性、

汗をかいてもサラリとし、しわになりにくい特性を活かし制作をすすめた。

おとなの女性が着たいと思う様、カジュアルになりすぎないことを心がけ、日本（和）の夏をイメージし設計した。

手洗いでできるよう、たて糸に防縮ウールを使用し、表のよこ糸に麻、裏のよこ糸に綿を使用する。



ものづくりリレーを通し、織物の奥深さを知り、織細さを知ることができた。

どこの分野が欠けてもいい物を作ることができない。一貫して作ることができる産地。

それぞれの分野で長年培ってきた技術の素晴らしさを絶やすことなく、次世代につなげていくことの難しさ、大切さを知った。

研修場所：近藤毛織工場(株)

山北 千寿恵